一枚起請文

もろこし我朝にもろもろの智者達の沙汰し申さる
る観念の念にもあらず　また学問をして念のこ
ろを悟りて申す念佛にもあらず　ただ往生極楽
のためには南無阿弥陀佛と申してうたがいなく往
生するぞと思い取りて申す外には別の仔細候わ
ず　ただし三心四修と申すことの候うは皆決定
して南無阿弥陀佛にて往生するぞと思ううちに
こもり候うなり　この外に奥ふかき事を存ぜば二
尊のあわれみにはずれ本願にもれ候うべし　念佛
を信ぜん人はたとい一代の法をよくよく学すとも
一文不知の愚鈍の身になして　尼入道の無智の
ともがらに同じうして智者のふるまいをせずしてた
だ一向に念佛すべし

為証以両手印

浄土宗の安心起行この一紙に至極せり　源空が
所存この外に全く別義を存ぜず　滅後の邪義を
ふせがんがために所存をしるし畢んぬ

建暦二年正月二十三日　大師在御判

為

年　月　日　浄書

願主